

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの状況と希望に合わせたケアと、安全でゆとりある生活を提供いたします」を理念に掲げ、日々、利用者の方々の商況や希望に沿えるようにスタッフが一丸となって行っている。	○  地域との交流を持ちながら、生活できるような理念に見直していく必要がある。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を全職員が理解して、管理者と共有し、リビングや事務室に提示し、常にこの理念を意識しながら、一人ひとりの希望や心身の状況を念頭に個別の支援を行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域運営推進会議に家族及び地域の方々を招き、理念などを説明したり、蜚新聞を配布するなどして、理解をしてもらえるよう取り組んでいる。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩や系列医院の受診時など、地域の方々にはこちらから挨拶をする様にしている。また、花壇や畑を作り、素朴な木の椅子を置いて近隣の人々が立ち寄りやすいようにしている。地域の行事にも参加するようにしている。(花見やねぶたなど)	○  地域の高齢者などの暮らしに役立てるように、介護教室や介護予防の講習会などを行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的に評価することの重要性を職員全員が把握・理解し、昨年の外部評価の改善に取り組む努力をしている。(毎食後の歯磨きの実施や洗面所の共用コップの廃止など)	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを運営推進会議で行い、そこでの意見を書面に残し、参加できなかった職員も目を通すことによって、サービスの向上に活かしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が主体となり、取り組んでいる。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については学ぶ機会が少なく、職員個々の理解もまちまちだと思う。	○ 地域権利擁護事業や成年後見制度について、全職員が同じ認識を持ち、必要な人には、それらを活用できるように支援するため、勉強会を開いて欲しい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会などの学ぶ機会をホーム内で持ち、虐待の防止の徹底に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、主に管理者が担当しているが、利用者及び家族に十分な説明を行い、理解と納得を得て契約を結んでいる。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に意見を聞く機会には設けていないが、意見箱を設置し投書していただいたり、要望などを話しやすい環境づくりに努め、それらを運営に反映するようにしている。(これまでの意見箱には、パン食の要望やもち入りのお汁粉が美味しかったなどの意見があり、要望には応える様にしている)	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者に心身の変化があれば、その都度、家族に連絡や報告をしたり、毎月の「ご家族へのお便り」や「蛍新聞」などで、日々の生活の状況を伝えている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時に個別に話す機会を設けたり、月1回のお便りの中に家族からの欄を作り、意見や苦情、要望があれば、運営に反映させている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回のカンファレンスのほか、随時、職員の意見や提案を管理者が聞き取り、運営に反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に必要な人数の職員が確保できるように、勤務の調整を行っている。また、行事では職員化ボランティアで参加し、より柔軟な対応を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ移動は殆どない。家庭の事情などでの離職はあったが、利用者へはやりわりとかつわかりやすいような説明を行い、混乱などは見られていない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が段階に応じて外部研修が受けれるように調整したり、内部研修は全職員が受けれるようにして、自己研鑽に役立てている。		
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との連絡・調整などを管理者が行い、交流する機会を持つようにしている。8月からは合同の勉強会が予定されている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別に相談したり、悩みなどを気兼ねなく話せるように配慮したり、親睦会を開きストレスの発散や軽減に取り組んでいる。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の自己評価をもとに、皆が向上心を持って働くことが出来るように助言などを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が窓口になり、本人や家族とじっくり話す機会を持ち、受け止める努力をしている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が窓口となり、対応に努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前や入所後、家族から利用者の生活歴や趣味・嗜好などを聞き取り、「その人なり」を把握し、場の雰囲気に徐徐になじめるように工夫している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごしながら、冗談を言ったり、テレビや新聞などの事件に怒ったりビックリしたり、又、感情を出しやすくするような言葉掛けをして、小さなことでも助言をもらったり、本人から学んだり支えあう関係を築けるように、日々努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお便りにて日々の様子を報告。面会時には近況を話したり、一緒に本人を支えていくという関係を築くために、小さなことでも情報交換をしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時には、なかに入って会話の手助けをしたり、日頃の様子を話し、より良い関係を築いていけるように支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きたい所（例えばお寺や自宅周辺など）に出かけたり、友人知人の面会時は必要に応じて、一緒に会話をしたりと支援に努めている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士と一緒に過ごしたり、共通の話題で集まる事が出来るようにレクリエーションを提供して、お互いが係わり合い、支えあえるように支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者の退所の経験がない。	○	現在のところ、このような事例は無いが、希望や必要があれば、いつでも応じることが出来るよう努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を話しやすい雰囲気を作ったり（例えば、改めて希望を聞くのではなく、雑談の仲でそれとなく聞く）。意見箱を設置して把握に努めている。困難な場合も家族や職員の意見を参考にして検討している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々における生活歴などを個別にケース記録に記録し、これまでの生活の把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々における一日の様子、心身状態や有する力をケース記録に記録したり、申し送りなどにより把握するように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族と話したり、日頃から「気づき」について職員間で話しあい、カンファレンスの時に検討し介護計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行なっている。毎日の様子観察により身体・心身状態の変化が見られる場合は、家族や主治医などの関係者と話し合い、現状に即した新しい計画書を作成するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を記録し、その情報を全職員が共有するように努めて実践し、介護計画の見直しにも活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在のところ、多機能性を備えていない。	○	医療法人としての医療との連携は行われている。 (週1回の往診、看護師による定期的な健康相談など)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員の訪問や、地域の行事への参加（花見やねぶたなど）を行いながら支援している。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、対応している。	○	サービスの利用とは違うかもしれないが、他グループホームとの利用者どうしの交流などを図っている。
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が主体となり、本人の意向や必要性に応じて、地域包括センターと協働している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人が母体になっているので、定期的な往診や健康相談、緊急の場合は24時間体制で適切な医療を受けることができる。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が主体となり、診断や治療を行っている。また、必要や希望がある場合は主治医の紹介状を得て、治療や診断を受けられるよう支援している。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週、医院の看護師が来所し、利用者自らが健康の相談したり、職員も気軽に利用者についての健康相談をしている。それにより、日常の健康管理や医療活動の支援が円滑に行われている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の状態、退院に向けた介護内容、看護サマリーや伝達などで情報を得て、今後の生活に役立つケアを考え、受入れる態勢を整えている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて、予め本人や家族ならびに主治医と話し合い、その後も状態の変化に応じて、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるように、主治医と共にチームとしての支援に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	管理者が主体となり、本人や家族に関わる関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に言葉掛けや対応に気を配り、記録などの個人情報の取り扱いにも細心の注意を払っている。	○	言葉掛けの時の声のトーンや目線の合わせ方、利用者一人ひとりに合わせたテンポでの対応に取り組んでいきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりが希望を話しやすい雰囲気づくりや、自己決定しやすい対応に心がけ、その人らしく暮らせるような支援に努めている。	○	一人ひとりに合わせた説明の仕方を、もう少し専門的に勉強し、よりその人らしく生活できるような支援をしていきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に沿えるような支援に努めている。	○	時間帯や職員の数が少ない状況によっては、職員側の都合を優先してしまうこともある。しかし、その状況を納得してもらえるような説明と対応の仕方が出来るように、職員一人ひとりが学んでいく必要性を感じる。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれに気を配る利用者に対しては、一緒に洋服を選んだり、アドバイスをしている。また、口腔ケアや清潔感のある身だしなみが出来るように支援している。理容、美容については希望があれば随時、希望されない利用者に対しては定期的に勧めるようにして対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
53	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者が金銭管理を行う事の重要性を理解している。自己管理できている利用者は数名いるが、管理できない利用者については、家族と相談のうえで金銭を預かり、場面に応じて財布を渡し自分で支払いを行えるように配慮している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望により、車や徒歩また車椅子にて、近隣への散歩やドライブ・買い物などに出かけている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と出かけたり、職員や他利用者と一緒に出かける機会を作って支援をしている。また、マイクロバスを借りて、ホーム全体での外出支援も行っている。	○	家族参加の行事などが少ない為、家族と過ごしている時の利用者の様子が把握しきれていない。家族と共に過ごせるような行事などの機会を作りたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に電話をしたり、手紙のやり取りは行っている。また、希望により代筆の支援も行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、お茶や椅子の提供をして、会話などを楽しめるスペースを作れるようにしている。また、小さな子供の面会時には、ジュースやぬいぐるみを提供する事もある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、全職員が正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	{介護保険における・・・具体的な行為}について、身体拘束をしないケアに取り組んではいるものの、常にその具体的な行為について勉強していく必要はある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターの使用が日常化しており、利用者が階段を使う必要性や希望が少ない為、2階階段室のドアは施錠しているが、あくまでも転落防止を考えての事であり、家族からも理解を得ている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーを考慮しながら、昼夜を通して、利用者の所在や様子を把握し安全に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為に勉強会を行ったり、ヒヤリハットによる報告書をもとに検討を行い、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルはあるが、応急手当や、初期対応の訓練は定期的に行っていない。しかし、急変時などは、主治医の往診体制が出来ている。	○	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行うようにする。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行い、その結果を地域運営推進会議で報告している。	○	ホーム内だけではなく、地域の人々も一緒に避難訓練に参加できるようにしたい。また、地域の人々との普段からの付き合いを通して、いざという時には、お互いが助け合えるような関係を作っておく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては、管理者や主治医（運営者）から家族に説明を行い、家族と相談をしながら個々に対する対応策を話し合い実行している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定以外にも、個々の利用者の異変の発見に努め、気付いた時には職員同士が情報を確認して、速やかに対応するようにしている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報があり、いつでも確認できるようにになっている。職員は個々の服薬について理解し、確実な服薬の支援と症状の観察に努めている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難な利用者については、介護計画の課題に取り上げ、予防と対応に取り組んでいる。薬に頼るのではなく、排便チェック表などでリズムを把握して、水分補給やメニュー作りの工夫やその人に合った運動の支援をしている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	言葉掛けをしながら毎食後の口腔ケアをしているが、これまでの生活の中にその週間がなかった利用者へは、本人の意思を尊重しながら口をすすぐことから始め、習慣化できるように支援している。異常が発生した場合は、家族と連絡をとり、歯科医と共に対処策をとっている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎飲食の記録をとり、個々の状態や習慣に応じた支援をしている。その内容として、トロミをつけたり刻み食にして食べやすくしたり、器などにも気をくばるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	常とうがい手洗いの習慣を身につけ、消毒液などを活用して、常に感染マニュアルに沿った予防に努めている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	熱やハイターによる消毒や殺菌を毎日行い、食材は用途に合わせた保存（冷凍やチルド）をしている。また、畑作などを行い、新鮮な食材の利用と管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りに花壇や畑を作り、その近くには椅子などを置いて、誰でもが座って会話できるようにしている。また、玄関には介護犬を置き、コミュニケーションの役割りを果たしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や日常の習慣（例えば、正月・ねぶた・七夕・クリスマスなど）に沿った、飾り付けをしたり、テレビの音量を調整したり、居心地良く過ごせるように工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファで気のあった利用者同士が過ごせるように、話題やお茶の提供をしたり、希望によって一緒に歌を歌ったりトランプや花札ゲームなどを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族と相談をして、今まで自宅で使用していたタ ンスや椅子、鏡台などを持って来ていただいたり、家族の 写真や好きなカレンダーを飾り、窓際には草花やぬいぐる みを置いて、居心地の良い工夫をしている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう 換気に努め、温度調節は、外気温と大きな 差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室は24時間換気システムが備えられており、毎 日の気温と湿度の記録をとっている。また、窓の 開閉を利用して利用者の状況に合わせた換気もこ まめに行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	バリアフリーはもちろんのこと、廊下・トイレ・ 浴室などには手すりを付け、ドアの取っ手も握り やすくしている。また、危険な物は取り除くだけ ではなく、その都度、話し合いをして出来るだけ 自立した生活が送れるようにしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ベットや家具を各自が使いやすく配置し、ドアに は目印をつけたり、日めくりや季節の装飾品を置 いて、混乱や失敗を防ぐようにしている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	廊下が長いので、天候に関わらず歩行訓練が出来 たり、小上がりには畳が敷いてあるので、横に なっていく体操などにも使用している。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

医療法人という母体を生かして、医療との連携を図りやすい。また、往診や看護師の健康相談も定期的に行われている事で、利用者及びに職員が安心して生活が出来る。一人ひとりの状況に合わせたケアを提供できるように、日々、全職員が一丸となってあたっております。